

事業名：体験・体感型のパーソナルモビリティツアー

■事業の目的（300字程度）

パーソナルモビリティの特徴である「パーソナル性」、「機動性」、「静寂性」、「コンパクト性」、「環境性」を活かして、まちなかの未来の交通体系をつくっていきます。

■事業の概要（300字程度）

世界で2番目の広さを誇る偕楽園公園をフィールドに 体験・体感型のパーソナルモビリティツアー（セグウェイを想定）を展開。子どもから高齢者まで、新感覚のパークアクティビティを提供。観光振興の起爆剤として、交流人口の拡大と地域活性化に寄与。

■社会的課題の現状アプローチ（図表可）

※解決が必要な社会的課題とは、どのようなものですか。

※この課題を解決するために、本事業ではどのような着眼点でアプローチしようとしていますか。

「まちを楽しく」 水戸市の偕楽園公園はニューヨークのセントラルパークに次ぐ世界2位の都市公園面積を誇る。また、日本三名園に数えられ、県内有数の観光地であるとともに、市民の憩いの場として親しまれている。この世界規模の地域資源をフィールドに、パーソナルモビリティを使ってもっと楽しく、もっと魅力的に変えていく。

「人にやさしく」 パーソナルモビリティが活躍するのは屋外の遊びだけではない。排気ガスを出さない、音も静かでコンパクトであるため、医療機関や介護施設等の屋内でも機能を発揮。歩行弱者の生活をサポートする。また、その他の応用として、運送・運搬における活用を進める。

「まちを快適に」 地方都市の交通事情は、自家用車による交通が主流となっており、特に茨城県は自動車保有台数率が全国3位と依存度が高い。水戸の中心市街地においては駐車場が虫食いの増加し、まちなかの活力低下の要因ともなっている。このような課題を解決するためパーソナルモビリティを活用したまちづくりを展開する。

■具体の事業内容（図表可）

※上記の課題を解決するという観点から、事業の内容をご説明ください

【水戸市の観光振興と地域経済への寄与】

世界で2番目の広さを誇る偕楽園公園をフィールドに 体験・体感型のパーソナルモビリティツアーを展開。子どもから高齢者まで、新感覚のパークアクティビティを提供。観光振興の起爆剤として、交流人口の拡大と地域活性化に寄与。

【交通弱者のサポート（医療・介護・福祉分野への応用）】

パーソナルモビリティの医療・介護型の改良を進め、交通弱者の生活をサポート。高齢化社会の到来を前に、自動車に代わる自由度の高い安全なモビリティを普及させる。

【運送・運搬サービスの効率化（運輸業への応用）】

パーソナルモビリティの運搬型の改良を進め、倉庫や市場における運送・運搬の効率化を図る。

【ヒューマンスケールな交通ネットワークの構築によるコンパクトシティ、スマートシティなど都市課題を改善】

まちなかの回遊性を高めるとともに、エコなまちづくりを推進。

シェアリング事業により、新しい自由で便利でスマートな交通システムを構築。

場所も取らなく、インフラ整備のイニシャルコストが低いため、コンパクトシティやスマートシティを促進。

■実施による効果

※この事業を実施することで、社会的課題はどのように解消される見込みですか。

- ①偕楽園公園の新感覚パークアクティビティを創出。観光交流を促進
- ②医療や介護、運送や運搬のシーンを改善。人々の暮らしをサポート
- ③自由で便利でエコなライフワークを創出。ヒューマンスケールなまちづくりを実現

■事業の特徴・革新性

※既存の取組と比べてどのような点が特徴的ですか。

※従来の方法と比べて革新的と思われるのはどのような点ですか。

- ①新感覚パークアクティビティを創出。観光交流を促進。
- ②交通弱者の生活をサポート。
- ③自由で便利でエコなライフワークを創出。
- ④ヒューマンスケールなまちづくりを実現。

■今後の展望

※この事業に対する今後の展望をご記入下さい。

観光から普及へ（2018～2020）

- ・偕楽園公園の管理者である、県、水戸市の協力
- ・パーソナルモビリティ普及に向けた産官学民連携推進組織の立ち上げ
- ・交通システムの整備など、国や警察の協力

応用と進化（2021～2023）

- ・医療機関や介護施設等の協力
- ・運輸事業者の協力
- ・パーソナルモビリティの製造メーカーとの共同開発

共存と順応（2024～）

- ・インフラ整備のための行政機関の協力
- ・公共交通ネットワークとの連携を図るための交通事業者等の協力
- ・まちの活性化のために、市民団体等との連携